AIで薬局経営を支援

電子薬歴レセコンに新機能

ユニケソフトウェアリサーチ

ユニケソフトウェアリサーチは、電子薬歴レセコン一体型システム「P-CUBEn」において、服薬指導から現場業務の効率化、薬局経営の健全化をトータルに支援する新しいAI機能「P-POSAIアシスト」の開発プロジェクトを開始した。来年には正式なサービス提供を開始予定。

同社は、これまで音声文字起こし機能やSOAP生成機能を搭載した「AI薬歴オプション」を展開してきたが、薬局現場からは「単なる入力作業の効率化にとどまらず、調剤監査や各種書類作成など、周辺業務全体の効率化や経営管理面での支援もAIで行いたい」というニーズが寄せられていた。

これらの声を受け同社は、患者ケアから店舗経営のスマート化を目指す「P-POSAIアシスト」の開発プロジェクトに着手した。

同機能は、服薬指導の要約から監査、書類作成のサポートまでに関わる業務をAIにより円滑に進めることを目指しており、算定要件に応じたナビゲーションや薬歴チェックを通して、健全な薬局経営を支援する。

具体的には、処方内容・疾患・患者背景をAIが解析し、要約された指導案を提示。選択操作によって薬歴への転記を行う。また、ハイリスク薬に関する重点確認事項や、医薬品安全性情報（DSU／RMP）、検査値に基づく用量妥当性を照合し、薬剤師によるチェック・確認業務をサポートする。

さらに、服薬指導におけるやり取りや要約データ、患者情報を連携し、服薬情報提供書、居宅療養管理指導報告書、薬学管理計画書などの作成業務を支援することにより、医師やケアマネージャーとの迅速な情報共有が可能になるという。

そのほか、調剤報酬や算定要件に対応したナビゲーションを通じ、収益化の機会損失を防ぐ。従来のボタン操作の手間を省き、薬剤師が患者との対話に集中できるよう、AIが会話の開始・停止を検知する機能も実装している。